

4期の任期を終える市長の考えは

宮城 力弘 (みどり21)



菊川市の合併を主導し、初代市長として第一に旧2町の融和を進められ、第1次・第2次菊川市総合計画を進める等数々の功績を残された太田市長のお考えを伺う。

Q 4期行政に精通した市長と職員が一丸となって市民との協働によるまちづくりを進められ、市長が理想とするまちづくりに今後も引き続き取り組むべきと考えるが、次期についても市長の座右の銘「継続は力なり」のお気持ちのもと、市政を担っていただけるのか。

A 菊川市長就任以来16年間、ひたすら両町の融和と市の発展の為に職務に邁進した。市議、市民の皆様をはじめ職員が思いを一つにし、一心不乱に新市の一体感の醸成に努め、新生菊川市の礎は確実に出来上がったと思う。充実した16年間であり、大きな達成感に包まれている。4期16年を区切りとし、初代市長として創業の役割を終わらせていただき、次の市長に

守成の役割を担っていただきたい。

Q 16年間で築き上げた菊川市の礎とその上に乗った行政を、次期にどう継承しようと考えているのか。

A 私の座右の銘は「継承は力なり」ということで、次期市長にもこれまで積み上げた第1次・第2次総合計画等を継承していただきたい。「創業守成」、立ち上げよりも守っていくほうが難しいということ、次期市長に理解され継承されたい。

他に「厳しい茶業への方向性は」「スクミリンゴガイ被害への対応を」について質問しました。



太田市長

リニア開通の水の問題を問う

西下 敦基 (市民ネット)



リニア開通工事による自然環境の破壊、大井川の水量減少や水質の悪化、地下水への影響について大変懸念を抱いており、市民の生活を守るため、対応について質問した。

Q 大井川の水量が減少した場合の影響は。取水制限する場合の割合は、流域の市町一律で行われるのか。

A 工事によって毎秒2トン減ると報じられ、大きな数字と考えている。現状でも渇水時には取水制限をすることがあり、減ることがあればさらに大きな影響がある。取水制限の割合は、大井川水利調整協議会で調整し、水道水、農業用水、工業用水それぞれで制限をしている。水量減少にならないよう、県・流域市町・利水者が一体となって対応している。

Q 水量減少時の対策として、自己水源である公文名浄水場の水量を増やすことはできるのか。予備の神田水源・小笠水源の活用はで

きるのか。

A 公文名浄水場は一日に処理できる量が4000トンで、現在約2200トン処理しており1800トンの増量は可能だが、それ以上は見込めない。神田及び小笠水源は施設の老朽化が進んでいて、多くの水道水を作ることができず、緊急時の一時的な活用は可能だが、継続的な活用は難しい。

Q 水問題に関して、市としての意向をどのように発信していくのか。

A 大井川水利関係協議会や県・流域市町との意見交換の場において、本市の意向を伝えていく。

他に「政策提言した多文化共生施策の取組み」について質問しました。

